

地域自主戦略交付金事業 林道北股弓手原線

野迫川村（建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

事業評価項目一覧表

事業名	地域自主戦略交付金	事業主体	野迫川村
河川・道路名等	北股弓手原線	事業箇所	野迫川村北股・桧股
評価項目及び評価内容			
事業の目的及び必要性 <input type="checkbox"/> 目的 道路交通網の構築を図り、生活環境基盤の整備を行う。森林施業の推進、林業生産性の向上及び保育作業の労働条件緩和を図る。 <input type="checkbox"/> 必要性 峰越しに結ぶ林道であり、道路交通網の骨格となる。 長期にわたる森林の整備、また村内道路網の整備を図る。			
事業策定の経緯 <input type="checkbox"/> 当時の状況 北股と桧股、弓手原間の集落の往来に時間を要していた。 林業従事者は、保育等の森林整備に徒歩通勤を余儀なくされていた。 <input type="checkbox"/> 着手までの経緯 生活道路、森林整備、木材搬出のために平成8年度より着手。 地元住民及び森林所有者の強い要望があった。			
事業の効果(費用対効果や施策的な効果など) <input type="checkbox"/> 計画時の効果 道路網の整備により、村の活性化が図られる。 森林整備の推進と山林への通勤時間の短縮と安全を図る。 <input type="checkbox"/> 現時点の効果 (費用対効果: 1.35) 森林の保育作業が推進されている。 通勤等、林業就労者の労働条件が改善されている。			
事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など) <input type="checkbox"/> 進捗状況 平成23年度末の進捗率は83.4% (完成4,824m / 計画5,784m) <input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因 村の財政状況が厳しく、必要な事業費が確保できなかった。また紀伊半島大水害を始めとする大雨によって既設路線が被災し、工事期間が十分に確保できなかった。			
事業進捗の見込み <input type="checkbox"/> 進捗の対策 平成26年度までに640m開設し、翌年度よりトンネル工事を実施する。 <input type="checkbox"/> 進捗の見込み 平成28年度事業完了予定			
事業の対策 平成28年度の完成を目標に早期の事業完了に努める。			
その他 <input type="checkbox"/> 関係機関等の意向 地元住民、森林組合より早期完成の要望がある。 <input type="checkbox"/> 関連事業の有無 無し			

林道北股弓手原線



1. 路線の現況
2. 事業効果
3. 今後の方針

1. 路線の現況



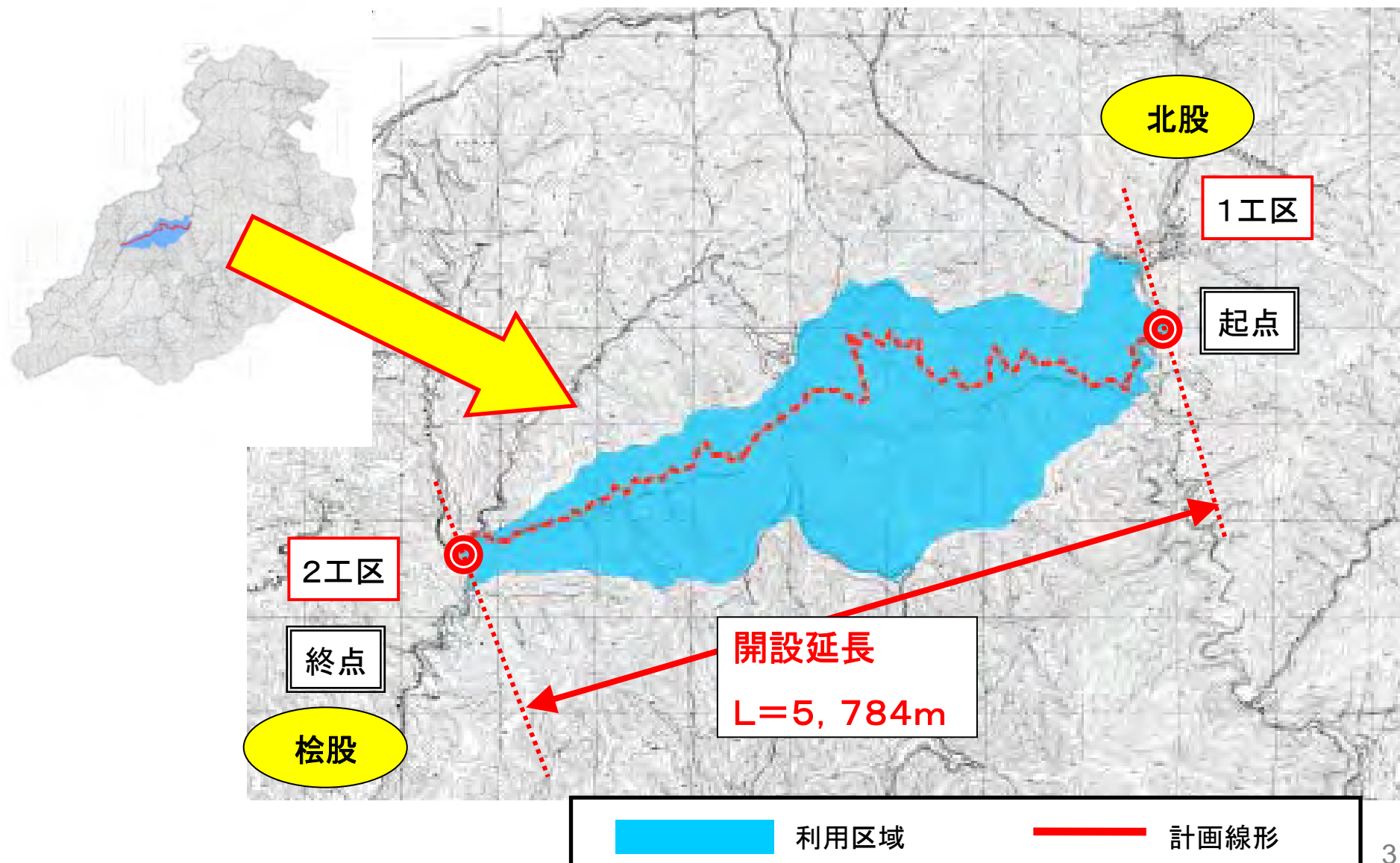
- (1) 全体計画
- (2) 森林資源の概要

1. 路線の現況

(1) 全体計画

① 当初計画(事業開始時:H8)

事業開始時(H8)の計画

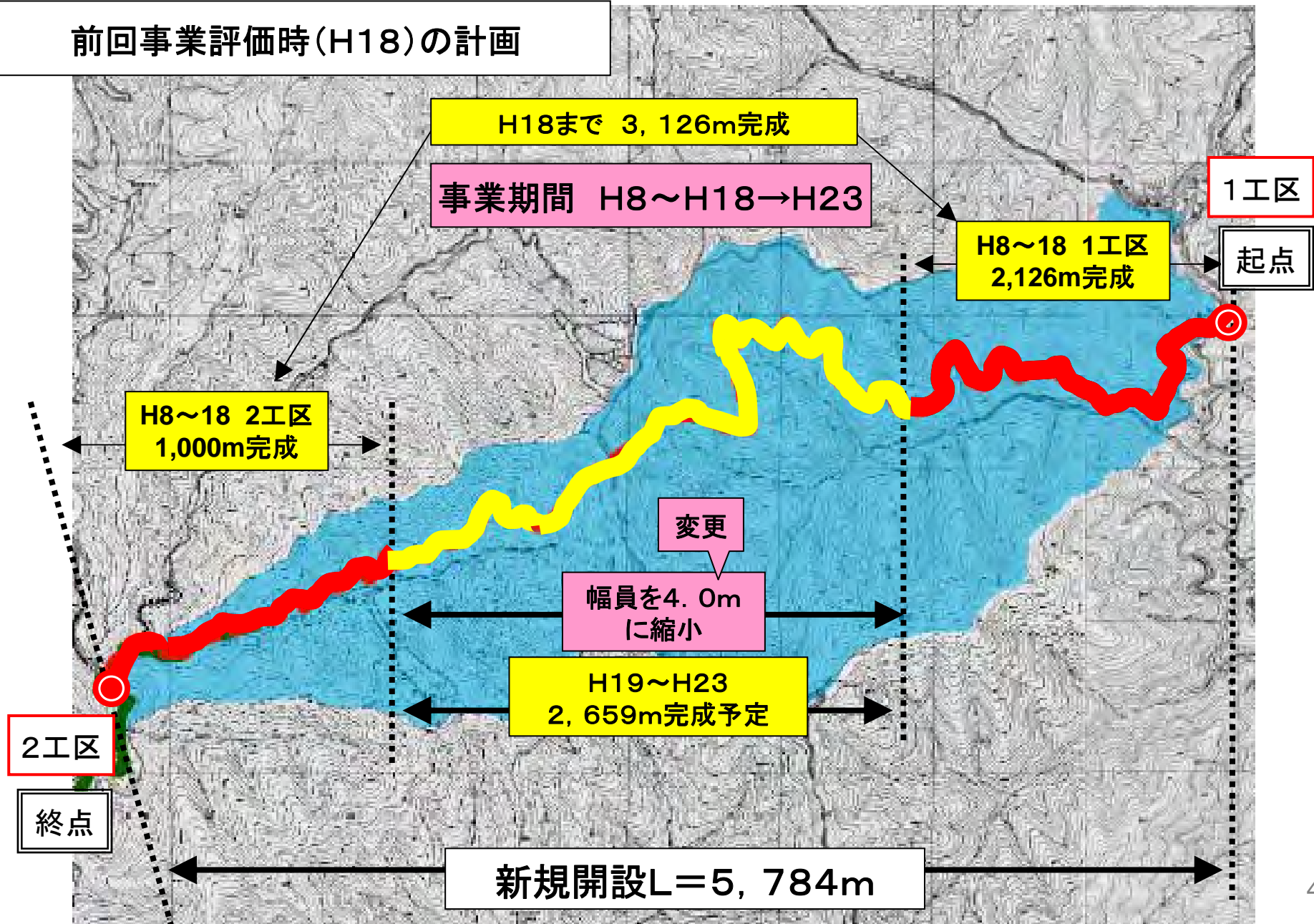


1. 路線の現況

(1) 全体計画

② 前回事業評価時の計画(H18)

前回事業評価時(H18)の計画

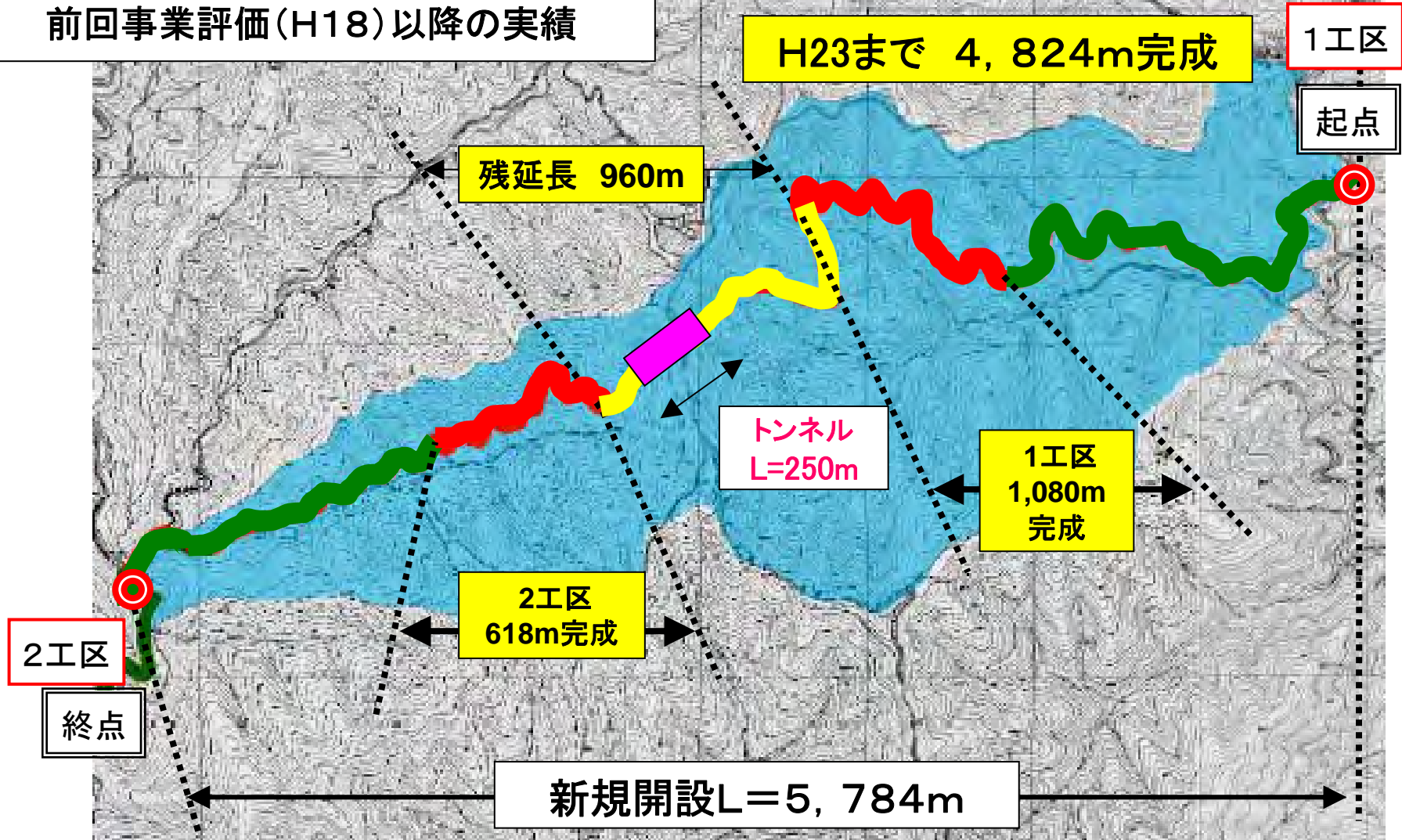


1. 路線の現況

(1) 全体計画

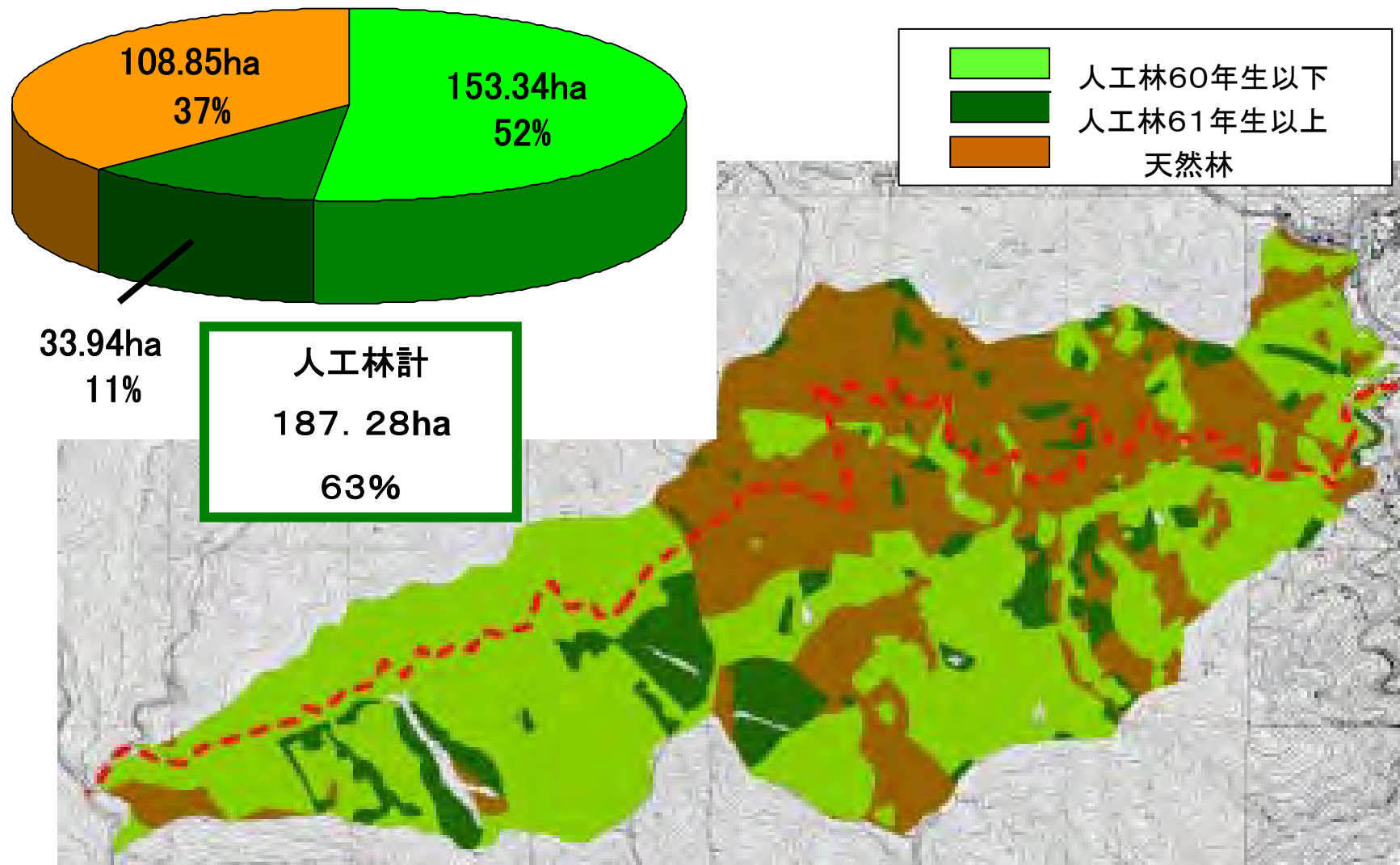
③ 事業進捗状況(H19~H23)

前回事業評価(H18)以降の実績



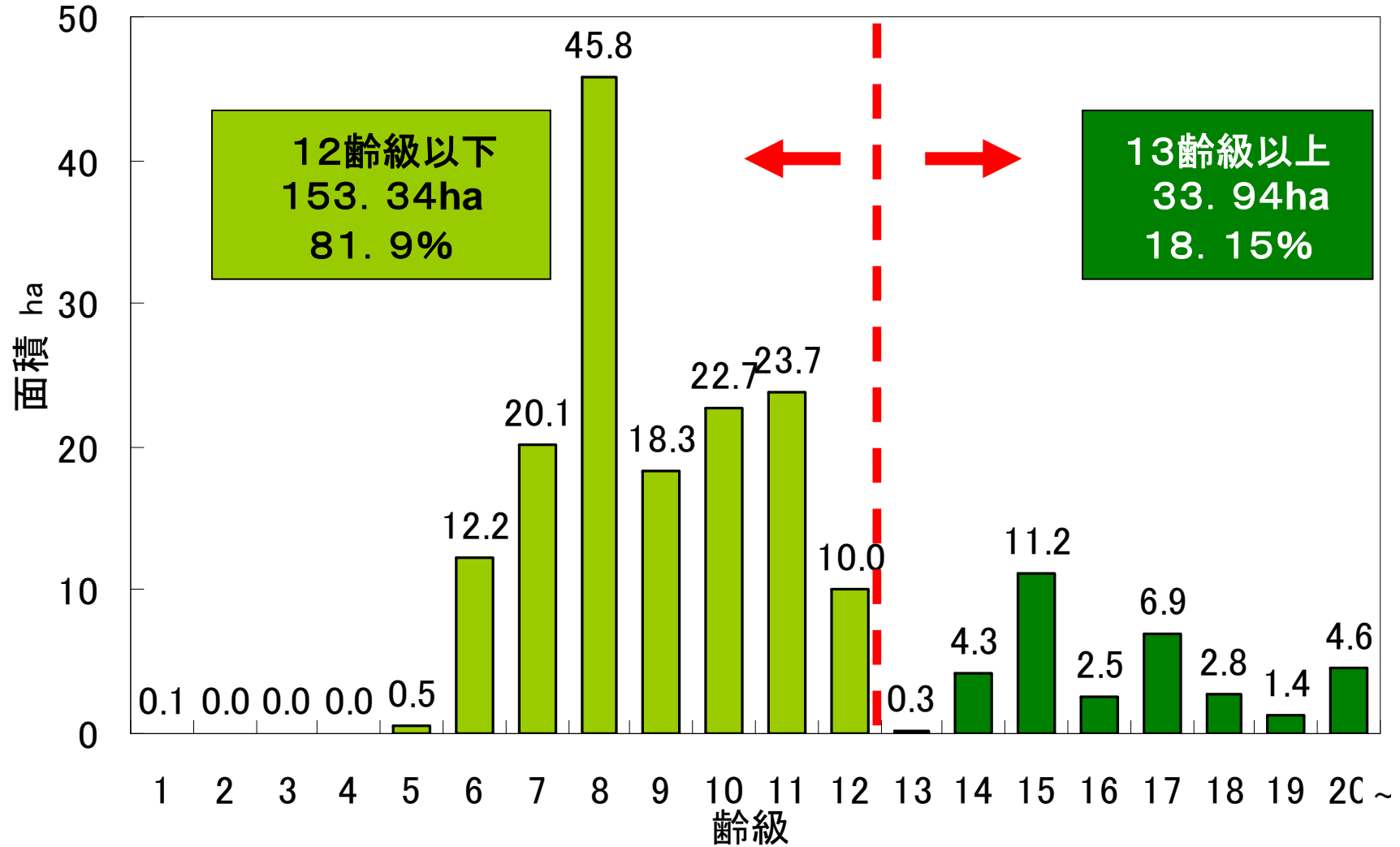
○豪雨災害による既設路線の復旧工事
○前回事業評価以降の村の財政状況の悪化

事業進捗の遅れ



60年生(12齡級)以下の森林は下刈りや間伐等の保育作業が必要

北股弓手原線 人工林 齢級別面積



12齢級（60年生）以下の保育が必要な人工林が81.9%

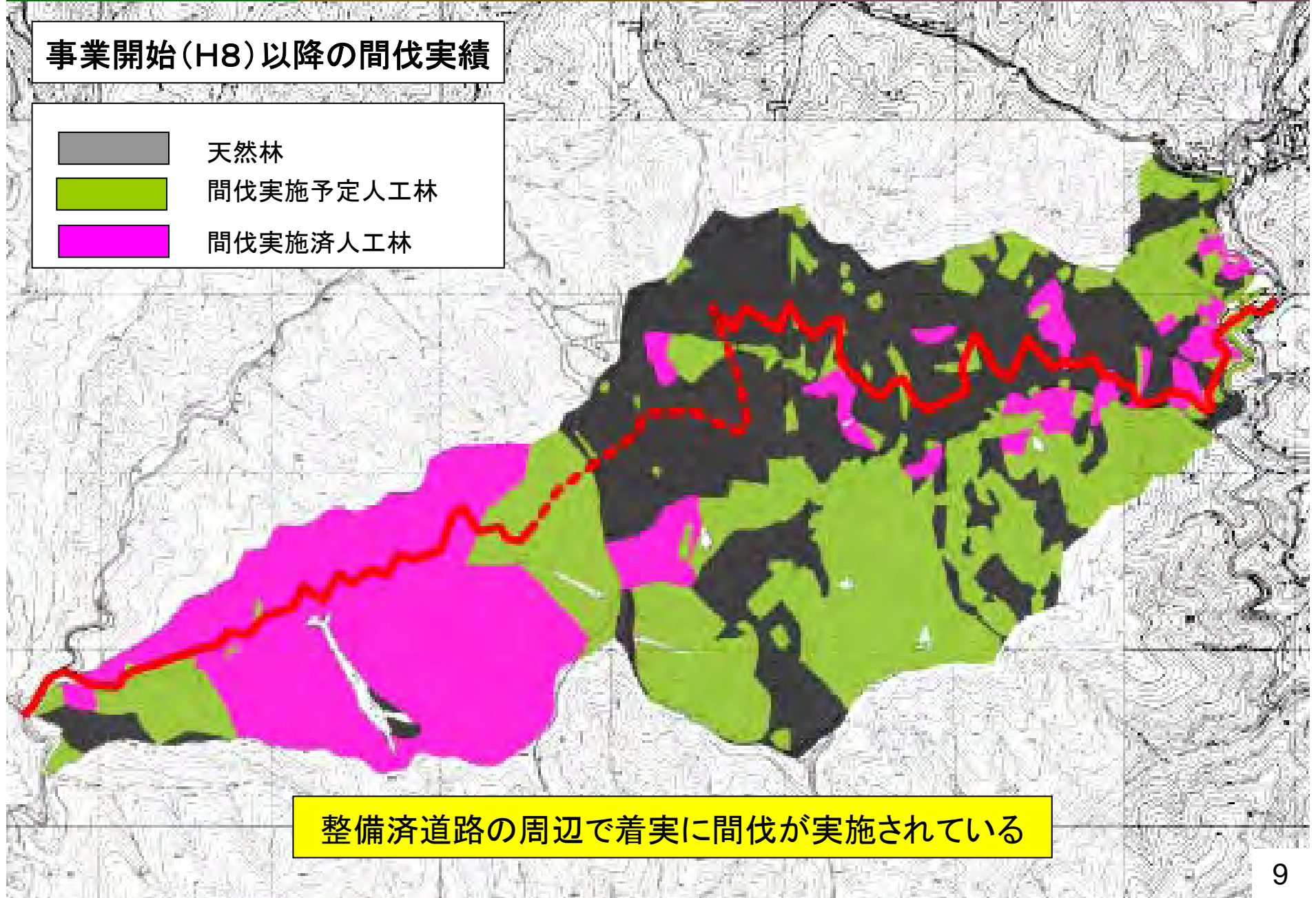
2. 事業効果



- (1) 林業施業の推進
- (2) 幹線道路としての役割
- (3) 迂回道路としての役割
- (4) 費用対効果について

事業開始(H8)以降の間伐実績

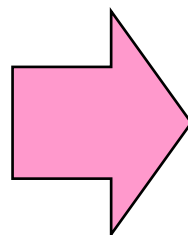
- 天然林
- 間伐実施予定人工林
- 間伐実施済人工林



整備済道路の周辺で着実に間伐が実施されている



間伐前の山林



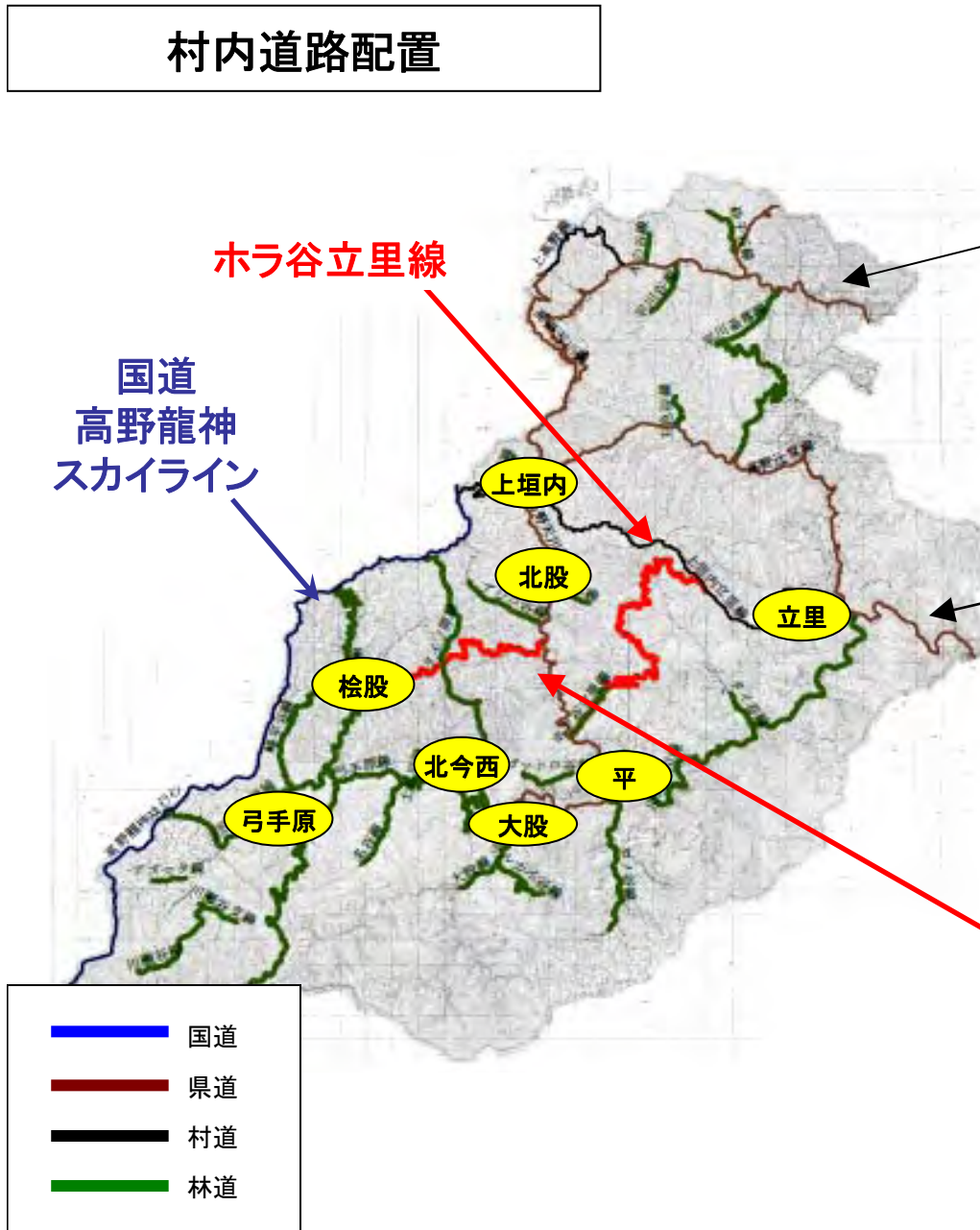
間伐後の山林

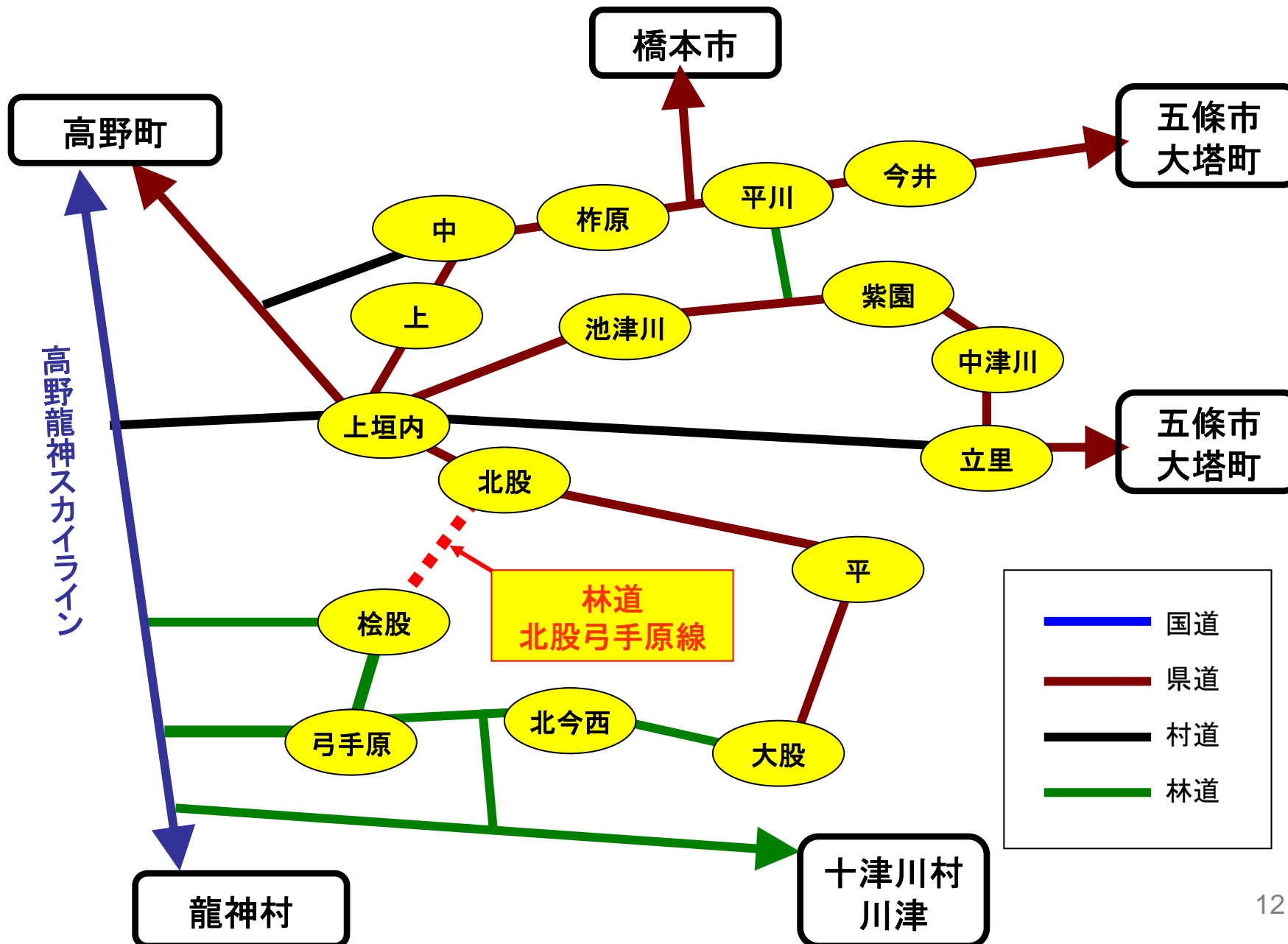
2. 事業効果

(2) 幹線道路としての役割

① 道路整備状況-1

村内道路配置





2. 事業効果

(2) 幹線道路としての役割

②役割1 生活道路としての利用



ルート①
国道を經由(最短ルート)
13.1km 30分要する

ルート②
林道北股弓手原線を利用
9.4km 15分要する

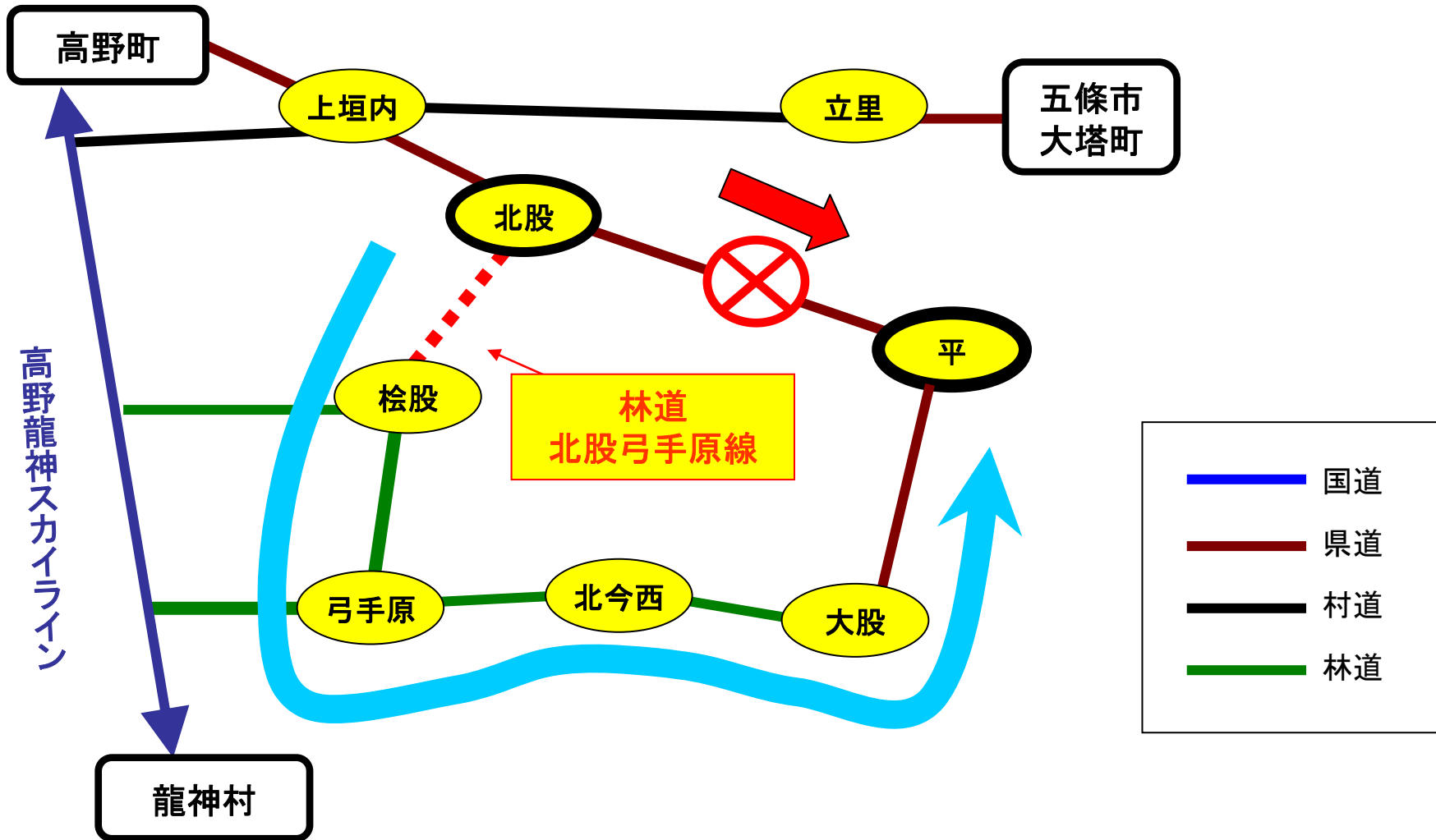
15分の短縮が可能

2. 事業効果

(2) 幹線道路としての役割

③役割2 観光道路としての利用





北股・平の間の村道が通行止めとなった場合でも
北股弓手原線を迂回路として利用可能

○総費用：3,367百万円

○総便益：4,575百万円

総便益額のうち、主な効果

木材生産便益
199百万円

森林整備経費
縮減等便益
3,810百万円

一般交通便益
341百万円

災害等軽減便益
225百万円

**費用対効果
(B/C) = 1.35**

**【参考】
前回評価時(H18)
B/C=1.23**

※費用対効果について林野庁の定める「林野公共事業における事前評価マニュアル」を適用

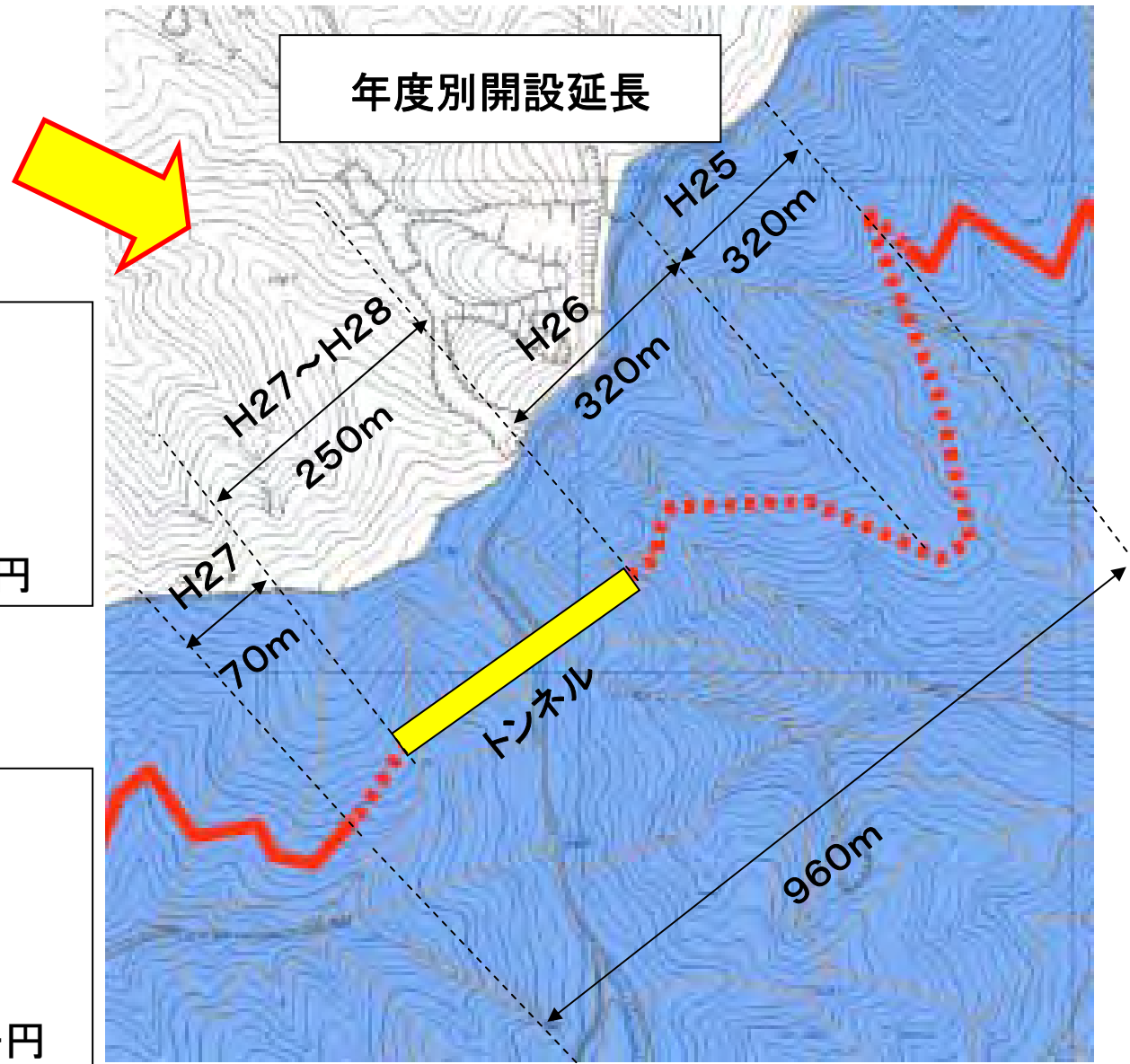
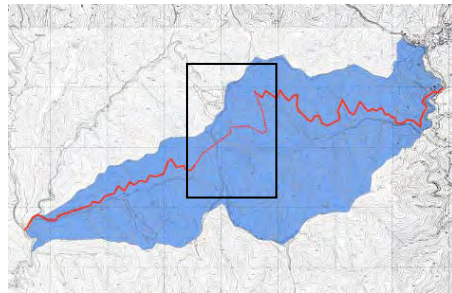
3. 今後の方針



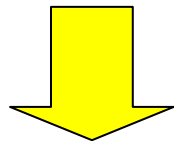
- (1) 全体計画の見直し
- (2) コスト縮減
- (3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興

3. 今後の方針

(1) 全体計画の見直し



前回計画	
事業期間	H8~H23
全体延長	5,784m
全体事業費	2,998,000千円

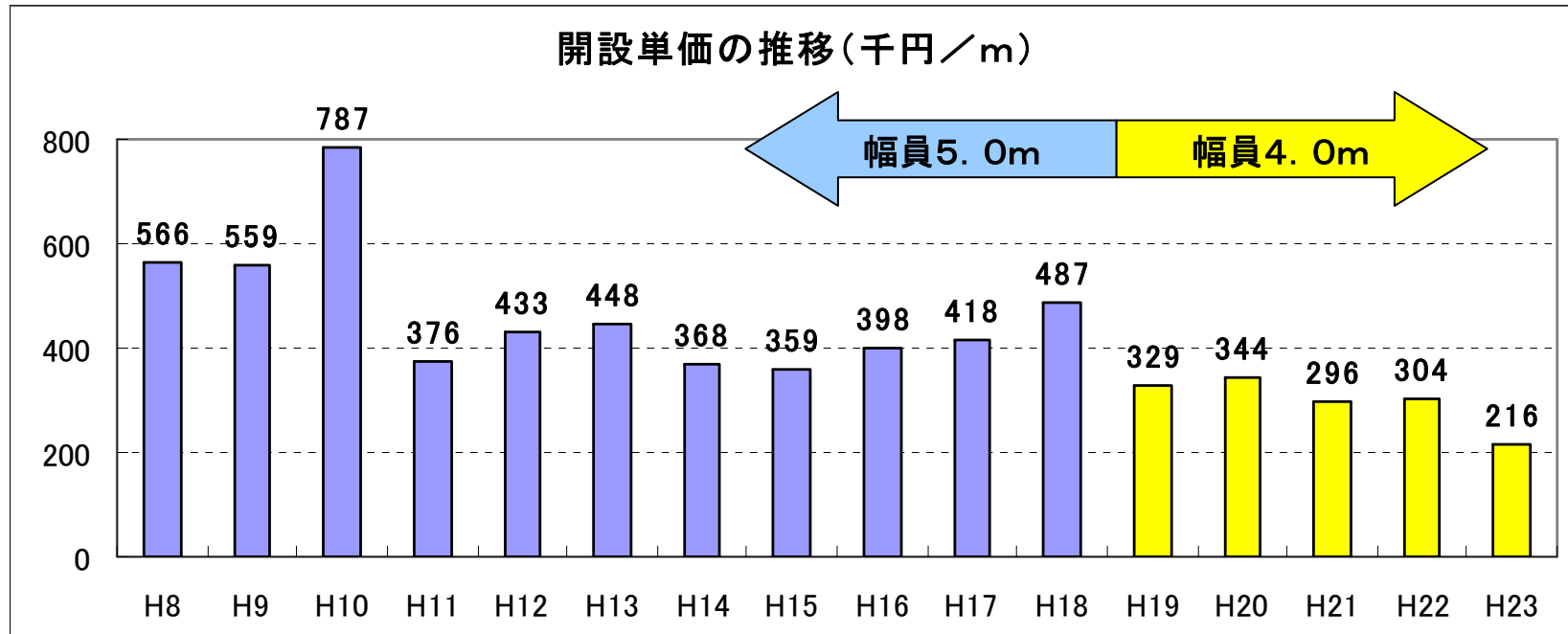


計画見直し	
事業期間	H8~H28
全体延長	5,784m
全体事業費	2,435,000千円

3. 今後の方針

(2) コスト削減の取組

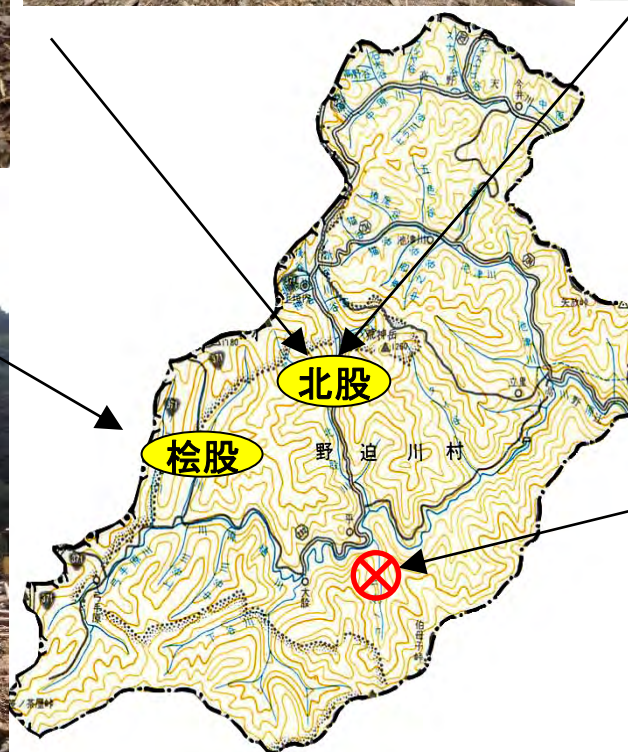
- 平成19年度から幅員を5.0mから4.0mに縮小 → **引き続き実施**



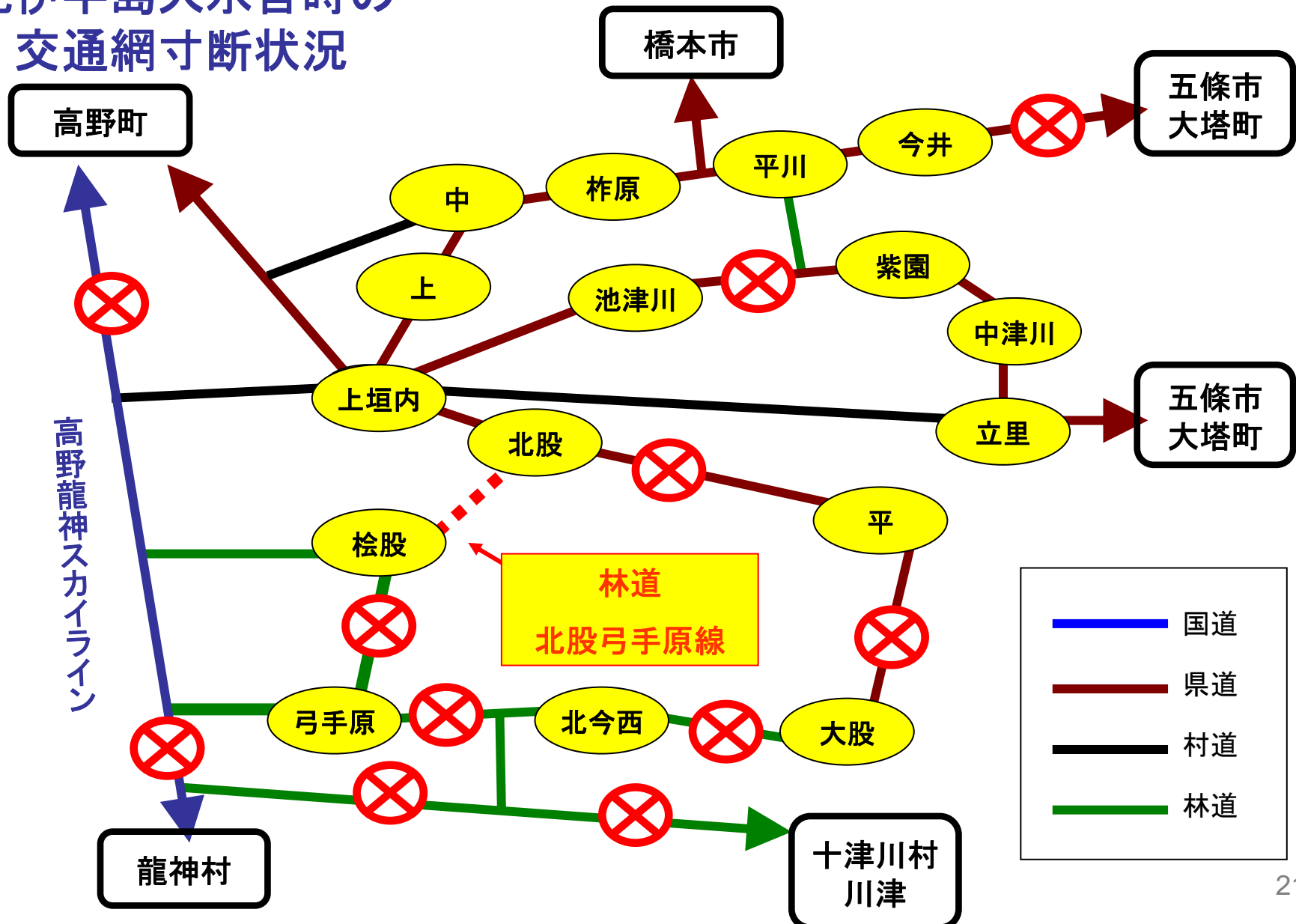
開設単価 451千円/m(H8~H18) → 297千円/m(H19~H23)

- 効率的な線形の採用、構造物の経済比較の徹底 → **引き続き実施**
- 平成27年度から着工予定のトンネルについては、**トンネル区間の延長短縮を検討**

紀伊半島大水害による被災状況



紀伊半島大水害時の
交通網寸断状況



3. 今後の方針

(3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興！

野迫川村では「安全・安心で、夢が語れる、夢が持てる村づくり」をスローガンとし、
昨年の紀伊半島大水害からの復旧・復興に全力で取り組んでいます。



- ☀ 林道北股弓手原線は、基幹産業である林業の振興だけでなく、地域の幹線道路として安心・安全な村づくりに貢献します。
- ☀ 開通までの残延長が1km未満となった当林道の全線開通は、紀伊半島大水害からの復旧・復興のシンボリックな存在として多くの村民が早期の完成を願っています。

林道北股弓手原線の平成28年度全線開通に向け事業を継続してまいります。